

本書は、中央審議会教育課程に関わっている方や研究者の先生方々が、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて個々人の思いを語っている。第1章では「アクティブ・ラーニング」の定義等が、文部科学省の議論等も踏まえて述べられている。アクティブ・

ラーニングは「特定の指導方法のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。教員がしっかりと関わりながら、子供たちに求められる資質・能力を育むためにどのような学びが必要かを考え、授業の工夫・改善を重ねることで実現する」の表現が印象深い。第2章では「アクティブ・ラーニングを実現するため」に、学校現場での方法論が掲載されている。

例えば、「アクティブ・ラーニングにおける能動的言語活動」では、「問題解決学習協同学習、発表・討論など言語が大きな役割を果たしている。ここで必要

教育課程研究会 編著

2160円 東洋館出版社

☎03-3823-9205

## アクティブ・ラーニング を考える

教育課程研究会  
編著

東洋館

とされるのは相手を意識したコミュニケーションのための言語活動。とりわけ、「説明する」「主張する」「質問する」「反論する」等は、社会活動では基礎となる活動であるが、従来の学校教育では焦点を当ててこなかった。」と述べられ、さらに、その内容について効果的な教師の進め方について具体的に説明している。またICTを活用については、「自ら課題を持ち調べて意見を

持つ主体的な学びと、他者と考えを共有することによって考えが更新される協働的な学びという二つの要件として捉えることができる」と示唆し、教育現場でのICT整備が課題であると指摘している。さらに、「カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニング」や「評価とアクティブ・ラーニング」等授業実践で直ぐに使える内容が盛りだくさんである。

寄稿欄では「企業人から見たアクティブ・ラーニング」等が掲載されており、学校現場のみではなく一般社会との連携も視野に入れた1冊である。

(愛知教育大学教授・高橋美由紀)

「アクティブ・ラーニング」  
を考える